

島根大学教育学部研究紀要第50巻の発刊によせて

学部長（紀要編集委員） 小川 巖

「島根大学教育学部研究紀要」は、1967年（昭和42年）12月に第1巻が発刊され、この2016年で「第50巻」となる。学部教員の研究成果を地域社会に公表する学術雑誌として年一回の公刊を続けてきた（ただし、1988年～1990年：1巻1・2号発刊）。

また、学部教員を中心とした研究プロジェクトの成果公表として、第42・44・45・48巻計4冊の別冊号も公刊された。特に、45・48巻別冊は教科専門と教科教育との融合を課題とした、「教科内容構成研究」に関わるものであった。これら研究プロジェクトの研究成果は、学部のみならず平成2016年度に新設された教職大学院の教育課程への反映、さらには、平成31年度目途に現在進められている新免許法（教科教育と教科専門を同一欄に位置づける等々）への対応基盤になるものだと評価する。

図1は、第1巻から第48巻までの発刊期間における1巻（1号）あたりの平均論文数を原則5年間の期間ごとに表したものである。なお、2015年発刊の第49巻の掲載論文数は12本であった。

1991年度からの教育学研究科設置を目指していた5期の始め（1988年）から第6期始め（1990年）では、1巻あたり2号の紀要を発刊していた。この時期における論文数が最も多く、その後減少傾向がみられる。このような紀要投稿数の減少は、国内外の学会誌（査読付き）への投稿の増加に主に起因している。このことは、下で述べるこれからの学部紀要のあり方を検討する必要性を示唆するものである。

また、近年の紀要の公開様式に変化があった。大学図書館において電子媒体として公開するシステムが整備された。このシステムでは、ダウンロード数も各論文毎に把握可能であり、教育学部紀要のダウンロード数が他学部のものに比べ多いという大学図書館からの報告があった。

第50巻という節目にあたり、今後、研究成果のより広い公開や、学術雑誌としての価値をより高めていくために、編集委員会では以下のことを現在検討中である。第一に、他大学の教員も編集委員に加え、学部紀要を「査読付き論文」とすること、第二に、「電子媒体による公表」への移行などである。

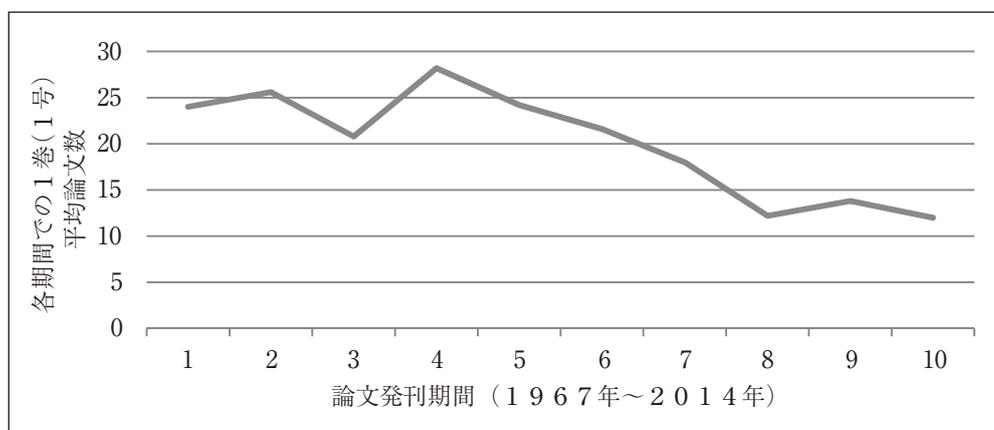


図1. 1巻（1号）あたりの平均論文数（別冊を除く）の推移

（発刊期間；第5期間は3年間(1988-1990)、第9期間は4年間(2006-2009)、他期間はすべて5年間）